

はじめに

市民生活や社会経済活動は、道路をはじめとした下水道、公園、河川等の様々なインフラによって支えられていますが、本市では、高度経済成長期の後期に集中的に整備してきた道路ストックが今後一斉に老朽化を迎えます。

例えば、2020年(令和2年)時点では、建設から50年以上を経過した橋りょうは約11%ですが、2035年(令和17年)には約70%と急激に増加することとなります。

これら道路ストックの中には、建設年次や構造形式等の施設の諸元や老朽化の状況など、管理に必要な情報が不足している施設や高水準な施設、時代のニーズに適合していない施設も存在しています。

また、これまでは壊れてから直すという意識のもと、短期的な視点による管理を中心に行ってきたおり、計画的に投資していくという中長期的な視点が欠けていました。これに加え、受益が長期に渡る道路ストックは、世代間負担の原則のもと管理を行っていくという視点も不足していたといえます。

このような状況に至った背景として、戦後、短期間で集中的に新たなインフラ整備に投資をする必要があったこと、老朽化に伴う損傷はその進行速度が遅く、問題が顕在化するまでに長期間を要するため、必要な措置が講じられてこなかったことなどが挙げられます。

しかしながら、平成25年度からはトンネル、橋りょう等の大型構造物については、定期的な点検が義務付けられるなど、道路ストックの管理にあたって、大きな転換期となりました。

本市においても、「藤沢市公共施設等総合管理計画」の策定を皮切りに、様々なインフラで長寿命化等の取組を進めています。

このような状況の中、道路部門では、少子超高齢化の進展、人口減少といった社会経済情勢の変化等を踏まえたうえで、効率的・効果的な管理を継続していくため、マネジメントの視点で道路ストックの管理を進めていくことにしたものです。

今後は、「藤沢市道路ストックマネジメント計画」を核として、道路ストックの安全なサービスレベルを維持できるよう、各プログラムに基づく取組を着実に進めていきます。

本計画の策定にあたっては、横浜国立大学の勝地教授、田中准教授に御意見を伺い、計画内容の検討を行いました。意見交換を重ねるなか、多大なるご協力・ご助言を頂きました。

○横浜国立大学 勝地 弘 教授

○横浜国立大学 田中 伸治 准教授



目次

序章 道路ストックマネジメント計画とは 1

1. 計画の役割及び位置づけ 1
2. 計画の構成 2
3. 藤沢市道路ストック白書の概要 4

第1章 道路ストックマネジメントの対象 5

第2章 マネジメント対象の現状 6

1. 道路ストック〈モノ〉 6
2. 道路ストックの管理体制〈ヒト〉 16
3. 道路ストックの管理費〈カネ〉 18
4. 道路ストックの情報管理〈情報〉 22

第3章 道路ストック管理の課題 24

第4章 目標及び基本方針 25

1. 目標と基本方針 25
2. 基本方針に基づく12のプログラム 26

第5章 事業計画 41

1. プログラムごとの事業計画 41
2. 道路ストックの施設ごとの事業計画 44

第6章 計画の効果 46

1. 計画的な管理による効果 46
2. 効率的な管理による効果 47
3. 持続的な管理による効果 48



第7章 道路ストックの施設ごとの管理方針 49

1. 道路舗装	50
2. トンネル	55
3. 橋りょう(横断歩道橋含)	57
4. 地下道(大型カルバート含)	61
5. 道路保護擁壁・のり面	63
6. エスカレーター	64
7. エレベーター	65
8. ガードレール等	66
9. 道路照明灯	67
10. カーブミラー	69
11. 大型道路標識	70
12. 小型道路標識	72
13. 路面標示	73
14. 街路樹	74
15. 駅関連施設	75

第8章 フォローアップ及び計画推進体制 77

1. フォローアップ	77
2. 計画推進体制	78

参考資料	79
------	----